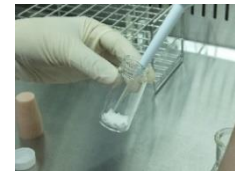


## JIS L 1922 -繊維製品の抗ウイルス性試験方法- とは

ウイルスは風邪をはじめとする疾病や食中毒の原因となります。また、人口の密集した環境は不特定多数の人との間接的な接触が多く、より衛生面でのリスクが高くなります。抗ウイルス加工は製品に付着したウイルスを減らして清潔に保ち、衛生的な環境づくりにも役立つことができます。これらの抗ウイルス加工を施した繊維製品の抗ウイルス効果を評価する方法が JIS L 1922 です。 \*直接、病気の治療や予防を目的とするものではなく、ウイルスの働きを抑制するものでもありません。

➤ 適用範囲

織物・編物・不織布・糸などの繊維製品が対象です。

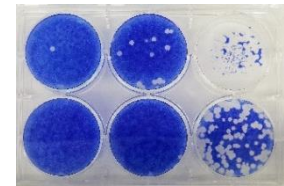


➤ 試験概要

抗ウイルス加工した試験試料と比較となる対照試料(綿標準布)にウイルス液を接種し、一定時間静置します。静置後、試料上のウイルスを回収し、感染価を測定します。試験試料と対照試料の感染価を比較することにより、どの程度ウイルスを減少させたかを抗ウイルス活性値 [Mv]として算出します。

➤ 抗ウイルス効果(参考値)

$3 > Mv \geq 2.0$  効果あり       $Mv \geq 3.0$  十分な効果あり



## SEK マーク

SEK マークとは、機能性繊維を対象にした製品認証マークのことで、(一社)繊維評価技術協議会が認証をおこなっています。加工剤の安全性・製品の安全性、機能性等すべての基準をクリアして認証されます。ニッセンケンは指定試験機関として、抗ウイルス加工マークの申請に必要な機能性評価を行っています。



## 詳細は・・・

- ▶ 本規格に関するより詳細な資料(PDF ファイル/25 ページ)は、[こちら](#)からダウンロードできます。
- ▶ バイオケミカルグループ [特設サイト](#)では様々な情報を発信しています。ぜひご覧ください。